

■他の CiNii との関係

・現在の CiNii Research の収録データベースに CiNii Books や CiNii Dissertations は含まれているが、CiNii Articles が含まれていないようです

→CiNii Research では、CiNii Articles とは異なる名寄せの仕方を行っているため、論文については、CiNii Articles を直接データソースとして使用してはおりません。CiNii Article に収録されているデータベースは今後 CiNii Research に収録予定です。

・ CiNii Books、CiNii Dissertations も含め CiNii Research に一本化していく予定はありますか

→まずは各 CiNii のデータから垣根無く発見できるよう、一体化を進めて参ります。サービスとしての一本化については慎重に検討して参りますが、2022 年 4 月時点では CiNii Books 及び CiNii Dissertations については同じ環境でご利用いただけます。

・現在、CiNii Articles と CiNii Research で検索した場合の論文検索結果の数に差異があります (CiNii Research の方が少ない) が、2022 年 4 月まではこの状態は続くのでしょうか。

・NDL 雑誌索引記事情報が CiNii Research に含まれていないようです

→NDL 雑誌索引記事については NII 内部での調整が十分進められておらず、CiNii Research に掲載できておりませんでした。ご迷惑をおかけしますが、本データについては今後搭載予定とさせていただきます。

■名寄せ

・CiA の著者 ID が名寄せされると ID が変わってしまうのが不便

→著者 ID の名寄せ後もリダイレクトなどで古い ID でもアクセスできるよう整備します。名寄せ精度については期待に応えられるよう努力して参ります。

・名寄せ精度向上のためどのような施策を検討しているか。また大学側はどのような協力が可能か

→名寄せ精度 UP のため、これまで利用していなかった外部データベースや著者情報で統合して参ります。大学側には著者情報の正確な入力と、もし修正箇所があった場合の迅速な修正にご協力いただけましたら幸いです。

■OA リクエスト機能

・もし本文を提供いただけない場合や著作権上の関係で公開できなかった場合、どのような処理がなされるか

→リクエスト送信者に納得してもらえるよう、OA 化できなかった理由を表示すべきだと考えています。こういった表示により、OA に対する研究者の意識も高まると思っています。

- ・ 機関情報のない非 OA 論文に対する OA リクエストの可能性について
→ 機関情報なしに OA リクエストはできないので、その付与が課題だと考えています。
- ・ OA リクエストが IR 担当者へ通知された後の著者への本文提供依頼の際、個人情報を伏せるのでしょうか。
→ IR 担当者から著者への本文提供依頼の際、氏名などの個人情報を伏せる予定です。
- ・ IR だけでなく学協会との対応も想定しているか
→ 必要に応じ検討して参りたいと考えています。
- ・ OA リクエストにもとづいて本文提供依頼が行われていることを著者に伝えるのがモチベーションの観点から良いのではないか
→ OA リクエストにもとづいていることを著者に伝える必要があると考えています。

■ 画面表示

- ・ 画面や機能仕様について、2022 年 1 月頃には確定しそうか
→ 画面や機能仕様についてはできる限り CiNii お知らせページ等でご連絡して参ります。
- ・ 視覚障害者も利用できるような対応はあるか（読み上げ機能等）
→ 今後の課題として検討させていただきます。
- ・ 目的の情報にたどり着くまでのクリック回数が多いように感じる
→ 論文本体への外部リンクボタンのスニペットへの表示や、OA 情報の活用など、改善を検討して参ります。
- ・ 検索結果に論文や KAKEN の課題名が混ざって表示されてしまい不便に思う
→ データ取得元を検索結果の左下「データソース種別」で振り分けられるように致しております。由来情報表示の利便性については引き続き検討を進めて参ります。

■ 外部 DB との関係

- ・ Japan Search との住み分けはどのようにしていくべきか
→ デジタルアーカイブ情報の表示など、検索結果リッチ化のために連携をしていくべきと考えておりますが、CiNii Research は人文社会学系以外の幅広い分野の情報もターゲットにして参ります。

・ JST GRANTS との連携は考えられていますか

→当該サービスの構築に NII が協力している背景があり、今後の連携を検討しております。

・ 論文によって検索対象に含まれるものとそうでないものがある

→できるだけ多くの範囲をカバーできるよう、外部 DB との連携を進めて参ります。

・ 日本語文献の引用情報が重要と考えられるが、今後引用情報は追加されていくか

→外部公開 DB を元に充実させて参ります。